

- 確定的影響
- 有意ながんリスク



がんリスクが  
どの程度かは不明  
(もしあっても小さい)

(ミリシーベルト/年)

100

20

1

緊急時の参考レベルの範囲

回復・復旧時の参考レベルの範囲

- 自然放射線  
レベルより低い

- 累積しても  
生涯100ミリシーベルト未満



出典：国際放射線防護委員会（ICRP）の2007年勧告より作成

100～200ミリシーベルト以上の線量に対しては、がんになるリスクが上昇するという科学的証拠が存在します。そこで、放射線事故による緊急時には、まずは重大な身体的障害を防ぐため、年間100ミリシーベルト以上の被ばくをしないように参考レベルを設定します。事故の収束によって、はじめに設定した参考レベルよりも高い線量を受けの人がほとんどいない状況が達成されたときには、将来起こるかもしれないがんのリスクの増加をできるだけ低く抑えるため、更に低い参考レベル（年間1～20ミリシーベルト等）を設定して、被ばくする線量の低減を進めます（上巻P138、「被ばく状況と防護対策」）。

平常時の基準値としては年間1ミリシーベルトが用いられます。そのため、被ばく量が年間1ミリシーベルトを超えると危険だとか、ここまで被ばくをしてもいいと誤解されることがありますが、線量限度は、安全と危険の境界線ではありません。他方、1ミリシーベルトまで浴びてもよいわけではなく、諸事情を考慮して現実的に可能な範囲で、できるだけ低く被ばくを抑えることが原則です。

本資料への収録日：平成25年3月31日

改訂日：平成27年3月31日